



川内あす午前再稼働

九電発表 新規制基準で初

九州電力は10日、川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）の原子炉を11日午前に起動し、再稼働させると発表した。14日に発電と送電を始め、9月上旬に営業運転を開始する予定だとしている。新規制基準に適合した原発の再稼働は全国で初めて。

反対住民抗議デモ

10日は原子炉内の核分裂を抑える制御棒の駆動検査を実施した。再稼働前の最終検査で、制御棒が規定時間内に原子炉に挿入できるかを確認した。11日は午前10時半ごろに起動後、午後11時ごろに核分裂が安定したと確認された。明日再稼働すれば、国

菅官房長官が

地元同意強調

菅官房長官は10日の記者会見で、九州電力川内原発1号機の再稼働について、「安全性が確認された原発については再稼働を進めたい」と述べた。川内1号機は7日に一部機器にトラブルが起きて部品を交換したが、九電は再稼働の工程に影響はないとしている。これまで原子力規制委員会には十五原発二十五基について審査の申請があり、川内原発は続いて関西電力高浜3、4号機（福井県）、四国電力伊方3号機（愛媛県）が適合している。

よって福島第一原発は全ての電源を喪失し、原子炉は大爆発を起こし、一瞬の間に福島県の広範囲で人が住むことも立ち入ることもできない街へと変貌させた。そしていまだ、放射能をまき散らし、海には高濃度汚染水を垂れ流し続けているのである。

この夏、記録的な猛暑にもかかわらず、電力不足は話題にも上らない。人々の節電意識は定着し、他方では太陽光発電や風力発電の自然エネルギーが広がりを見せ、核エネルギーの期待されている。福島第一原発事故の原因も解明されず、また誰も事故の責任を取ることがないままに、再び原発を稼働させたのである。これはただただ財界・原発製造会社と電力会社を中心にした原子力村の利害を維持することであり、安倍政権の「核技術」の維持と原発輸出政策のためである。決して許すことはできない。私たちは決して福島を忘れない。すべての原発を廃炉にする闘いを強めていこう。

原発の起動 燃料集合体の隙間に差し込んだる制御棒を引き抜くことで核分裂が始まり、原子炉が起動する。半日程度で核分裂の連鎖が安定して続く臨界状態となり、蒸気発生器でつくった蒸気でタービン回して発電し、送電する。約1カ月間、炉内の圧力や温度などのデータを確認しながら原子炉出力100％で調整運転し、国の最終検査に合格すると営業運転に入る。

東京新聞 2015年8月10日（夕）

2015年8月11日（火）
全労協事務局発行
TEL 03-5403-1650

全労協fax情報

NO.1701

川内原発再稼働糾弾!

安倍政権の暴走を今すぐ止めよう!

福島原発事故の悲劇を繰り返させない

本日（8/11）、鹿児島県の九州電力・川内原発一号機は制御棒を取り外して再稼働した。9月上旬には営業運転に入る予定である。

2011年3月11日、忘れることのできない東日本大震災による地震と津波に



声川内

命が危険にさらされる

九州電力川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）が11日に再稼働することをめぐり、原発周辺では10日、全国から数百人の市民が抗議に駆けつけ、警察官らが厳重に警備し、異様な雰囲気包まれた。（写真参照）

原発に数百人抗議 異様な厳重警備

炎天下にもかかわらず、市民らは周辺に置かれたバリケードの隙間を縫って路肩に座り込み、テントも設置された。「原発は生命を危険にさらす」「電気は足りている」「事故が起きたら、誰が責任を負うのか」と抗議した。すぐ横では市民らを包囲するようについば警察官が立ち、特に正門ゲート前はガードマンも含め幾重にも警備の列が並んだ。原発に通じる県道には検問が設けられ、全ての車に免許証提示を求めた。白バイが頻りに行き交い、海と空でも船とヘリが警戒。路地の入り口やモニタリングポストなどの施設にも警察官が立っていた。鹿児島県警の広報担当者は「警備上の都合で、警察官の人数は明かせない」とした。市民からは「過剰警備だ」との指摘が相次いだ。鹿児島県から抗議に参加した中川修治さん（68）は「私たちが悪いことをしているのだというイメージをつくり出すための警備か」と顔をしかめた。

川内原発入り口前で、再稼働反対のデモ隊を包囲する警察官。10日、鹿児島県薩摩川内市で。